

研修  
レポート

地縁型ボランティアの育成

まちづくりゼミナール

社会福祉ボランティア大学校では、9月~11月の3回にわけ、「平成29年度まちづくりゼミナール」を開催しました。今年度は、「社会福祉施設等の社会貢献活動とその専門性を活かした地域の問題解決」をテーマに実施しました。

1日目は、「社会福祉施設の社会福祉貢献活動に地域が期待するものは何かを考える。」という題で、大蔵第一地区社協の梅本会長からは、地域で施設の専門職による講座の開催、薫会の曾我理事長からは、地域と一緒に行事を行っていることをお話いただきました。

2日目は、「保育園、障害者施設の専門性を活かした社会貢献の在り方考える。」という題で、千防保育所の内田施設長からは、子どもたちと地域の高齢者の関わりを作りたいこと、鴨生田校区社会福祉協議会の久保田ふれあいネットワーク部長からは、ウエルクラブで障害者施設の見学を通じて福祉教育をしていることについて事例発表をしていただきました。



3日目は、「企業による社会福祉貢献活動で地域が望むもの、企業ができることを考える。」という題で、JA北九の池尻課長からは、食を通じた社会貢献につ

いて発表をしていただきました。

最後に、ボランティア大学校の山崎校長から、社会福祉施設や企業が持つ専門性を地域の課題とどううまく結びつけていくかについてまとめていただきました。

受講者の方は、自分たちの暮らす地域がどうやったらよくなるかということ真剣に考え、今抱えている地域の課題や問題点を解決するために、今後どのように社会福祉施設等と関わっていけばよいかなどの白熱した討論が繰り広げられました。

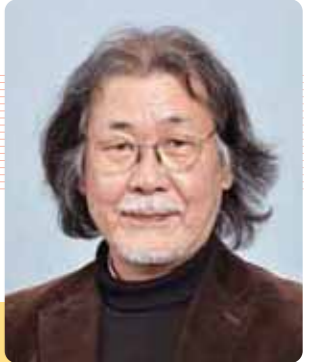
実際に、研修が終わりすぐに自分の地域の施設へ連絡をとり連携することができた、つながりができたという声もあがり、今後の地域の発展に期待ができる研修になったのではないかと感じました。

これからも自分たちの地域を住民と施設等が支え合いながら安心して暮らせるまちづくりができるような研修を進めていきたいと思えます。



シリーズ福祉エッセイ「しあわせづくり、ひとづくり」②

「ボランティア」への思い



早稲田大学  
社会科学総合学術院 教授  
久塚 純一 さん

早稲田大学の「平山郁夫記念ボランティアセンター」の副所長を務めながら、「あーでもない」、「こーでもない」と考えていることがある。それは、教育機関での「ボランティア」の位置づけについてである。

2015『世界ボランティア白書(ガバナンスの变革)』によれば、「この白書で用いられるボランティアリズムの定義には「自由意思且つ一般的な公益のために行われる活動で、金銭的な報酬を主たる動機としないもの」という文言が見られます」としている(日本語版サマリー//8頁)。ここに見られるように、ボランティア活動は、一般的には「自発的な意志に基づき他人や社会に貢献する行為」とされ、その性格として、①「自主性(主体性)」、②「社会性(連帯性)」、③「無償性(無給性)」等が挙げられる。このように定義されたからといって、私の探している「答え」は出てくるものではない。現代社会での「ボランティア行為」は複雑な位置にあるのである。

例えば、「先生、ボランティアをたくさんやると進学に有利になるんです。履歴書にインターンをやっていたと書けるんです。これが大事なんです。」というように位置付けしている若い人たちがいる。これも現実である。さらには、「元気な高齢者の方々が地域で自らが介護支援のボランティアを行った場合、その人にポイントを付与したらどうか。」だとか「ボラン

ティアポイント制度のような工夫はどうか。」という考え方もある。

そもそも、「ボランティア体験」とは、一体、何なのだろう?そして、「ボランティア体験」の「結果」は誰のものなのだろう?考えてみれば、「ボランティアの体験」とは、「ある行為をする側」と「される側(対象)」とがそろって、初めて「関係」として成り立っているモノなのである。そのような「ボランティア体験」の「結果」を「する側」だけで独り占めするか?それとも「相互の共有されたモノ」として相手方と分けるか?ということが問われることになる。「相互関係」のお礼としていただいた「おまんじゅう10個」なら、そのような「場を提供してくれた相手側」に半分渡せても、「行為」としてなしたボランティアを、後になって半分切り分けて渡すことは困難である。

ボランティアに関して言われる①「自主性(主体性)」、②「社会性(連帯性)」、③「無償性(無給性)」等は、「ボランティア体験」が、そもそも、「成績評価」や「ポイント」になじまないモノであるというコトを別の角度から表現したものなのではないであろうか。

受講者募集

平成29年度 地域福祉活動指導者研修

「トップセミナー」開催

「地域の生活支援力」をもっと高めるために  
~安心して暮らせる北九州 私たちにできること~

講師: 早稲田大学 社会科学総合学術院  
教授 久塚 純一(ひさつか じゅんいち)氏

団塊の世代が後期高齢者(75歳)をむかえる2025年に向けて、地域の状況にあわせたサービスやまちづくりを進めていかなければなりません。

今回のセミナーではこれからの後期高齢者の増加を見据え「みんなが安心して暮らせる支え合いのまちづくり」の実現に向け、地域で活動する皆さんと一緒にこれからの地域福祉の取組について考えます。

- と き: 平成30年2月15日(木) 13:00~15:30
- と ころ: ウエルとばた3階中ホール(戸畑区汐井町1-6)
- 参加費: 無料(定員300名)
- 申込み: 2月1日(木)までに電話でお申込下さい。TEL881-6321

社会福祉法人の  
社会貢献活動セミナー

受講者募集

- と き: 平成30年3月1日(木) 13:30~15:30
- と ころ: ウエルとばた12階H・I研修室(戸畑区汐井町1-6)
- 参加費: 無料(定員20名)
- 申込み: 2月22日(木)までに電話でお申込下さい。TEL881-6321

企業の  
社会貢献活動セミナー

受講者募集

- と き: 平成30年3月9日(金) 13:30~16:00
- と ころ: ウエルとばた12階H・I研修室(戸畑区汐井町1-6)
- 参加費: 無料(定員20名)
- 申込み: 3月2日(金)までに電話でお申込下さい。TEL881-6321